

三保まちづくりセンターの新たな取組

事業名 **三保の豊かな自然で 防災デイキャンプ！ 子どもも大人もつながろう！**

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

以前、三隅地域には子ども会連絡協議会主催のジュニアリーダー研修で小学校高学年はキャンプを通して、自立、協調性、自然への敬意、リーダー性等を学んでいた。協議会が解散したのちは子供会単独事業が難しくなった。そこで、まちづくり委員会等と連携し近年多発している自然の脅威に備えるため防災を意識したデイキャンプを計画。キャンプを通し、三保地区の豊かな自然に愛着を深めるとともに、生きる力の向上につなげ、防災を意識した取組により、子どもも大人も含めた地域住民同士の交流、絆が深まり、有事の時の助け合い、つながりのある持続可能な地域づくりへの機運の醸成を期待する。

D 事業の概要

日時：令和3年7月22日（木）（祝：海の日） 8:30～16:00 参加人数：77名
会場：田ノ浦海岸、B&G 海洋センター体育館・研修室、田ノ浦公園オートキャンプ場
共催：三保地区まちづくり推進委員会、浜田市社会福祉協議会三隅支所
協力：浜田市消防本部西部消防署、B&G 海洋センター、浜田市三隅支所防災自治課
内容：午前①カヌー体験、水難事故防止講習（B&G 海洋センター）
②防災グッズ制作（まちづくりCD、委員会）炊出し訓練（社協）火起こし（委員会）
午後③応急処置講習（消防）④ロープワーク（消防）⑤避難所体験（防災自治課）
対象：小学生及び親子を中心とした三保地区住民（委員会スタッフは役割を担いつつ参加者）
☆コロナ過での開催ということで午前の事業①②は選択制にし、午後の③④⑤は参加者を3グループに分けて密にならないようにローテーション制にして全て体験できるようにした。成果として災害時の動きなどイメージ出来た。しかし保護者世代の参加が少なかったことが今後の課題。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

上記評価の理由

コロナ禍で感染対策を十分に行い約80名の事業が出来た。事業後のアンケートから災害時自分が何をしたらいいか、何ができるか考えることができた。今後もこの事業を継続する必要がある。子どもだけでなく大人もいい体験ができた。次回も参加したいとの意見が多かった。ケガや熱中症等の体調不良者が無く終了した。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

中・高生、大学生等、保護者世代の参加を促す必要がある。多世代の交流が必要。多様な家族構成から親子参加を前提にすることは難しいので親世代、また、若者世代に計画段階から参画できる仕組みづくりが必要である。

